

第 2 回審議会 でいただいたご意見

地域防災に対する意見

■ 様々な立場の人の参画の確保の必要性や課題

- 独身の人、結婚していても子どもや介護が必要な親がいない人は、どのような形でこういった活動に参加していくのか。
- 民間企業の場合、地域のことを考えたことがなかった。
- 町内会や P T A の活動に働いている人がどれだけ出ているのか。世の中のコンセンサスをどのように形成していったらいいのか。
- 働いている人は、職場と住まいが離れている場合など、地域における震災直後の安否確認などの活動が難しい。日頃からどうするか話し合っていくことが必要。

■ 地域の要支援者に関する情報共有の必要性

- ひとり暮らしの高齢者や障害者などの情報を共有することが大切ではないか。

■ 防災・避難所に対する意見

- 避難が長期にわたる場合は、女性専用のスペースを導入しては。
- 減災という視点も防災意識作りと並行してやっていく必要がある。

■ 多様な視点を共有する必要性ー避難所ワークショップの有益性

- 町内会、民生委員、障害者、消防分団、P T A、学校などのリーダーが横につながるような組織作りをし、意見交換していきたい。
- 地域の方々との日頃のお付き合いは大切。
- 地域の状況が違うので、事例を参考にしながら、地域にあった取り組みをまず検証してみることが大切。
- 女性でも、世代によって考え方が違っている。
- 避難所ワークショップは、子どもや子育て中の人が必要なもの、介護に必要なもの、障害のある人が大変なことといったことを、いろいろな人が集まって、互いに話し合い、気づいていくことができるので、有効である。多様な視点をみんなで共有できる。実際の避難所運営では、「実は、私たちはこういうことをして欲しい」ということを言えなかった人たちがたくさんいた

と思う。事前にみんなでコンセンサスを得ていれば、「ああ、あの時言っていたことね」というように、みんなが要望を言えるような関係性を作ることができる。地域の多様な人が視点を交流する場が必要。

男女共同参画に対する意見

■ 女性の視点の必要性

- 女性の視点からの検証が本当に必要。また、それだけではなく、障害者からの視点、子どもからの視点、高齢者からの視点など、多様な視点を一つ一つ出しながら考えることが必要。
- 地域では女性の代表者がなぜ少ないのか、男性はどういう視点を持たなければいけないのかといったことも考える必要がある。
- 女性は障害者や高齢者など、いろいろな方たちをケアしているので、その人たちのニーズが、女性を通して見えてくる。

■ 意思決定過程への女性の参画の必要性

- 地域の女性の意見や活動を引き上げるためにも、地域防災を考える行政や審議会といったところに女性の委員をきちんと入れる必要がある。
- 同時に、地域の現場にも、女性を増やしていく、地域レベルでの男女共同参画が必要である。
- 地域防災を確実に男女共同参画の視点で進めていくためには、もう少し幅広いところからも男女共同参画を進めなければならない。地域防災で男女共同参画が進むと、それが梹子（てこ）になり、また広い分野に男女共同参画の種がまかれる。

■ 地域での男女共同参画のモデル作り

- 地域での男女共同参画のモデル地域作りを示すことも必要では。